

第2巻 第2号 (通巻第4号) 2013年12月発行

ISSN 2187-0292

埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 2, Number 2

2013

特集

第42回 埼玉透析医学会 学術集会
プログラム・抄録集

第4回 埼玉アクセス研究会 PROCEEDINGS-2013



埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 2, Number 2

2013

特集

第42回 埼玉透析医学会 学術集会
プログラム・抄録集

第4回 埼玉アクセス研究会 PROCEEDINGS-2013

埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

INDEX

巻 頭 言 119

第42回埼玉透析医学会学術集会 プログラム・抄録集

会場案内図・会場見取図 123

参加者へのご案内とお願い 124

記録集原稿執筆要項について 125

タイムテーブル 127

プログラム 128

抄 録

モーニングセミナー 134

ランチョンシンポジウム 138

アフタヌーンワークショップ 144

一般演題 148

協力企業一覧 170

第4回埼玉アクセス研究会 学術集会 PROCEEDINGS-2013

proceedings 目次 173

特別講演 175

ランチョンセッション 178

シンポジウム 192

一般演題 203

学術集会開催記録 241

2013年施設名簿 242

埼玉透析医学会会則 244

索 引 246

次回開催のご案内

第5回 埼玉アクセス研究会

会 期：2014年8月24日(日)

会 場：大宮ソニックシティホール棟3階 小ホール
〒331-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5
TEL 048-647-4111

会 長：下山 博身(友愛クリニック)

副 会 長：中川 芳彦(南町クリニック)

演題申し込み方法：オンラインによる演題受付とします。詳細は
後日アップされる大会 HP をご覧ください。

募集期間：2014年4月1日～6月30日

共 催：埼玉透析医学会

事 務 局：埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部
小川 智也
〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981
TEL：049-228-3523 FAX：049-226-6822
e-mail：jinkojin@saitama-med.ac.jp

埼玉透析医学会誌

巻 頭 言



埼玉透析医学会会長

鈴木 洋通

今年の夏は日本全国を猛暑が席卷し、人の体とくに腎臓には様々なダメージを与えたことは想像に難しくない。とくに透析を受けている人々は毎日毎日が長く感じられたのではないだろうか。その様な患者さんを受け持っている透析関連の医療従事者は日々神経を研ぎ澄まして患者さんのケアに当られた事と推察している。

さて、その様な日常の診療から何らかのヒントを得て、より新しいものあるいは従来顧みられなかったこと、また見過ごしていた様な事柄からどう患者さんに生かし発展させていくのか。この様な問いに対して科学的手段を持ってまとめ、それらを発表していく目的で学会は存在しているのではないかと考えている。ではその様なことをどう科学的に処理をするのか、まず大切なのは発信されている事象をどう説明し得るのか、それはどの様な変化に基づいているのか、それには確固たる知識と蓄積された経験が必須であると云っても過言ではない。しかしそれらは簡単に手に入ることは出来ないのも自明の理である。特に若い人達にとっては偉大な壁が目の前に立ちほだかり、それらに挑戦する意欲さえもともすれば失いがちになってしまう。とくに大学や公的病院では孤立することは少ないが、本邦では施設透析を中心として透析医療が行われている関係からしっかりとした情報が得られなく、また意見の交換を行う機会も少ないのが現状ではないかと危惧している。多くの患者さんと接する機会が多い施設の医療関係者が、製薬会社や医療機器メーカーが送り出す情報のみに頼るといのもいささか問題がある様に思われる。この様な状況を鑑みて、まさに相互の情報を科学的に処理し、それに基づいて実りある討論をすることにより明日に向かって医療を前進させる原動力としてこの 埼玉透析医学会学術集会を位置づけていきたい。

今回は例年に比して多くの演題も集まり、さらにセミナーとシンポジウムそしてワークショップを用意させて頂いた。

是非皆様とともにしっかりとした科学に基づき、それを日常の診療に生かすことにより新たな経験を自分のものとすべく学会を盛り上げていきましょう。

42nd Annual Meeting of
Saitama Society for
Dialysis Therapy

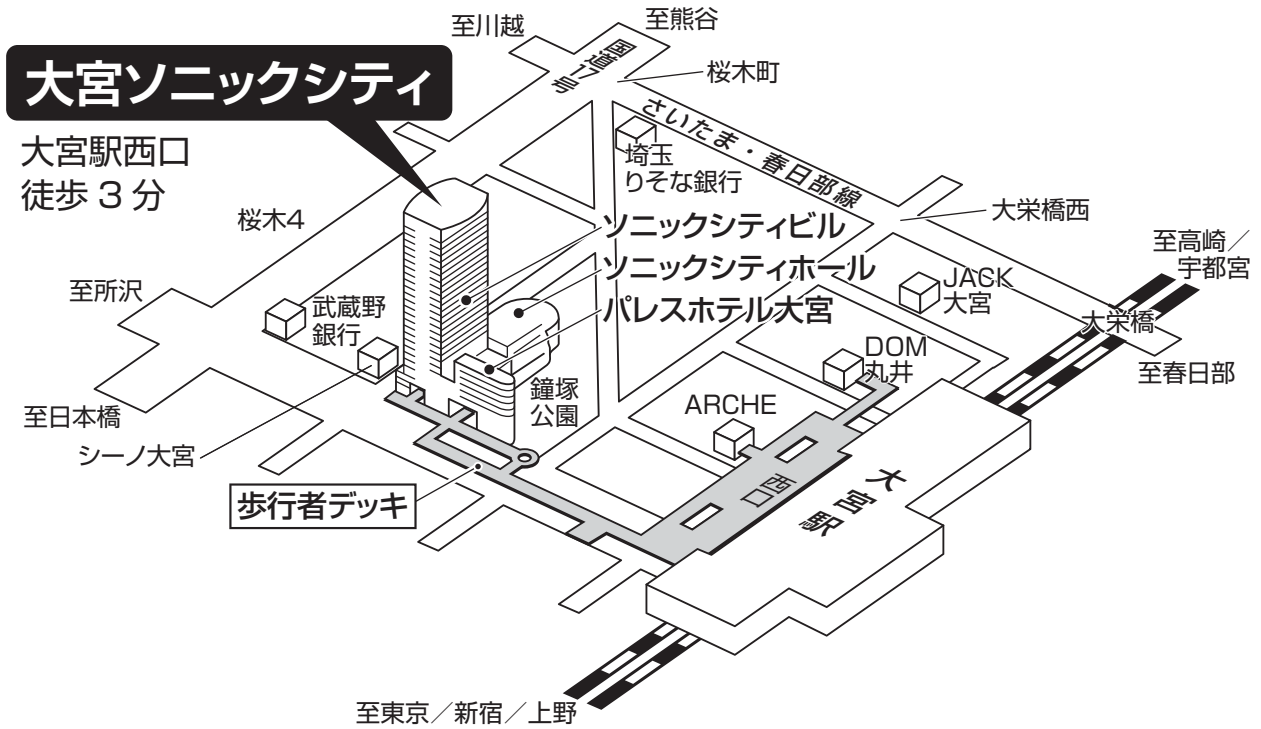
Abstract
2013

第42回埼玉透析医学会学術集会

- 会 長：鈴木 洋通 (埼玉医科大学 腎臓内科)
- 日 時：平成25年12月1日(日) 8:50～
- 会 場：大宮ソニックシティ 国際会議室 (ホール棟4階)

事務局：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部
TEL / FAX：042-984-0064
URL：http://www.ssdt.jp
E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

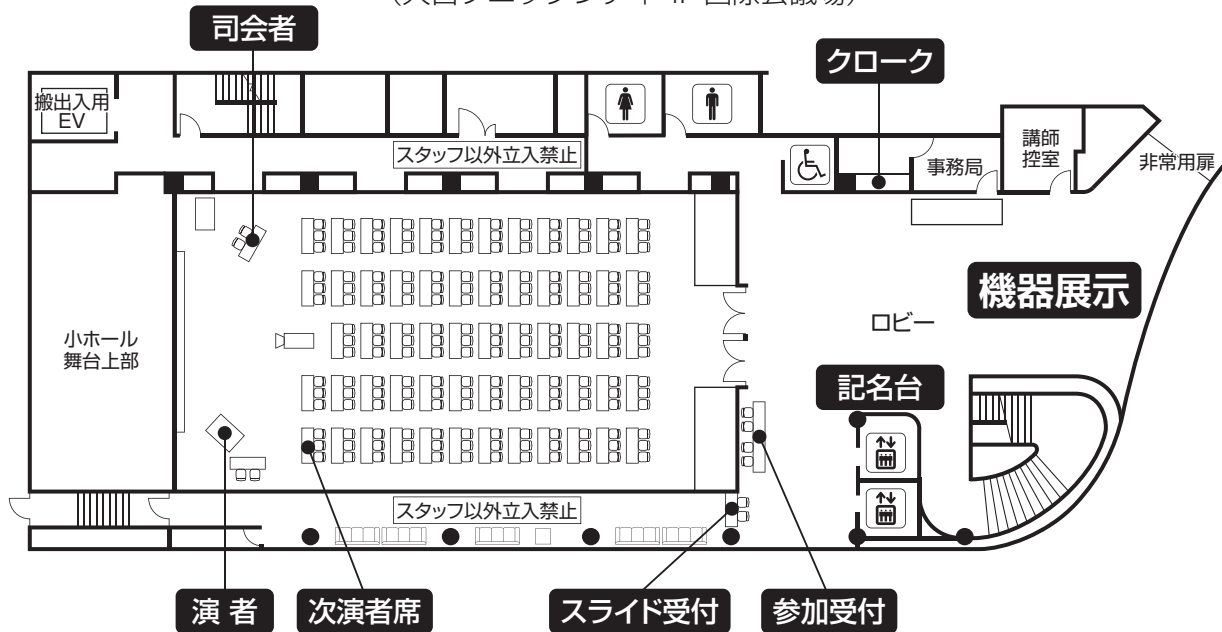
会場案内図



お問い合わせ
 財団法人埼玉県産業文化センター（大宮ソニックシティ）
 〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1丁目7番地5
 ソニックシティビル5階 私書箱75号
 TEL：048-647-4111 TEL：048-647-4159

会場見取図

(大宮ソニックシティ 4F 国際会議場)



2013年 12月 1日(日) 大宮ソニックシティ ホール棟4階

第1会場 国際会議室		展示 国際会議室前ロビー	打合せ会場 会議室501
8:00		8:00~	
8:30	8:30~ 開場	設営	
8:50	8:50~9:00 開会挨拶		
9:00	9:00~10:00 モーニングセミナー 在宅血液透析の現状 座長:鈴木 洋通(埼玉医科大学 腎臓内科) 渡辺 裕輔(埼玉医科大学国際医療センター 血液浄化部) 演者:高根 裕史(埼玉医科大学 腎臓内科) 佐藤 薫(埼玉医科大学病院 看護部) 大橋 直人(埼玉医科大学病院 血液浄化部)	9:00 ↓ 16:00	
10:00	10:00~10:50 一般演題① フットケア 他 座長:添田 昇(医療法人慈正会 レインボークリニック) コメンテータ:菅原 壮一(医療法人桂水会 岡病院)	企 業 展 示	
11:00	休憩		11:00~11:30 災害時の透析医療 を考える会埼玉 世話人会
11:00	11:00~12:30 ランチョンシンポジウム 透析療法における薬物治療の役割 座長:竹田 徹朗(獨協医科大学越谷病院 腎臓内科) 熊谷 裕生(防衛医科大学校 腎臓内分泌内科) 演者:川本 進也(獨協医科大学越谷病院 腎臓内科) 甲田 亮(獨協医科大学越谷病院 腎臓内科) 伊藤 誓悟(防衛医科大学校 腎臓内分泌内科) 大島 直紀(防衛医科大学校 腎臓内分泌内科)		11:30~12:00 埼玉透析医学会 幹事会
12:00	休憩		
13:00	12:40~13:10 埼玉県における災害時の透析医療について 司会:鈴木 洋通(埼玉透析医学会会長) 特別講演:福田 弘昌(埼玉県保健医療部医療整備課) 災害時の透析医療を考える会埼玉の活動報告:田中 和彦(医療法人健正会 須田医院)		
	13:10~13:30 総会 議事進行:鈴木 洋通(会長)、高根 裕史(事務局)		
14:00	13:30~14:20 一般演題② 統計解析 他 座長:桑原 道雄(医療法人秀和会 秀和総合病院) コメンテータ:栗原 怜(医療法人慶寿会)		
15:00	14:20~15:20 一般演題③ 透析合併症 他 座長:中里 優一(医療法人博友会 友愛日進クリニック) コメンテータ:松村 治(医療法人蒼龍会 武蔵嵐山病院)		
16:00	15:20~16:20 アフタヌーンワークショップ これからはじめるオンライン HDF 座長:田部井 薫(自治医科大学附属さいたま医療センター 腎臓科) 小川 智也(埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部) 演者:山下 文子(医療法人蒼龍会 若葉内科クリニック) 羽生 宜浩(社会医療法人財団石心会 さやま腎クリニック、埼玉石心会病院 CE室)	16:00 ~17:00	
17:00	16:20~17:20 一般演題④ 透析技術 他 座長:山下 芳久(埼玉医科大学 保健医療学部 医用生体工学科) コメンテータ:松田 昭彦(埼玉医科大学総合医療センター 腎・高血圧内科)	撤収	
	17:20~17:30 BPA表彰・閉会挨拶		

第42回埼玉透析医学会 プログラム

平成25年12月1日回
8時30分 開場 8時50分 開会

開会挨拶 8:50～9:00

会 長：鈴木 洋通(埼玉医科大学 腎臓内科)

モーニングセミナー 9:00～10:00

在宅血液透析の現状

座長：鈴木 洋通(埼玉医科大学 腎臓内科)
渡辺 裕輔(埼玉医科大学国際医療センター 血液浄化部)

MS-1 当院での在宅血液透析(HHD)の現況と長期在宅透析患者群の傾向
埼玉医科大学 腎臓内科 高根 裕史

MS-2 在宅血液透析(HHD)訓練の指導技術について
埼玉医科大学病院 腎臓病センター透析室 看護部 佐藤 薫

MS-3 在宅血液透析における管理システムについて
埼玉医科大学病院 血液浄化部 大橋 直人

(共催企業プレゼンテーション) 9:00～9:05 日機装株式会社
9:05～9:10 キッセイ薬品工業株式会社

一般演題1 10:00～10:50

フットケア他 座長：添田 昇(医療法人慈正会 レインボークリニック)
コメンテータ：菅原 壮一(医療法人桂水会 岡病院)

O1-1 「埼玉腎不全看護勉強会」の活動報告
医療法人社団和栄会 所沢腎クリニック 前藺 道子 他

O1-2 糖尿病性腎症透析患者へのフットケアへの一考察
一患者の視点を取り入れた指導パンフレット作成第一報一
医療法人埼玉会 埼玉草加病院 神尾 明美

O1-3 当クリニックにおけるフットケアの取り組み

イムス三郷クリニック 天野 寛

O1-4 透析患者の下肢病変に早期介入をおこなったフットケアチーム3年間における治療の検討

(医)桂水会 岡 病院 沼尻 陽子 他

O1-5 当院透析患者における心臓足首血管指数(CAVI)検査

さいたまつきの森クリニック 検査部 荒川 友美 他

ランチョンシンポジウム 11:00~12:30

透析療法における薬物治療の役割

座長：竹田 徹朗(獨協医科大学 越谷病院腎臓内科)

熊谷 裕生(防衛医科大学校病院 腎臓内科)

LS-1 透析療法における薬物療法の役割 ESA 製剤

獨協医科大学越谷病院 腎臓内科 川本 進也 他

LS-2 透析療法における薬物治療の役割

獨協医科大学越谷病院 腎臓内科 甲田 亮 他

LS-3 透析患者の血圧管理目標

防衛医科大学校 腎臓内分泌内科 伊藤 誓悟 他

LS-4 透析患者のカリウム管理の実際

防衛医科大学校 腎臓内分泌内科 大島 直紀 他

(共催企業プレゼンテーション) 11:00~11:05 協和発酵キリン株式会社

11:05~11:10 中外製薬株式会社

埼玉県における災害時の透析医療について 12:40~13:10

司会：鈴木 洋通(埼玉透析医学会会長)

特別講演：福田 弘昌(埼玉県保健医療部医療整備課)

災害時の透析医療を考える会埼玉の活動報告：

田中 和彦(医療法人健正会 須田医院)

埼玉透析医学会総会 13:00～13:30

議事進行：会 長・鈴木 洋通(埼玉医科大学 腎臓内科)
事務局・高根 裕史(埼玉医科大学 腎臓内科)

一般演題2 13:30～14:20

統計解析他

座長：桑原 道雄(医療法人秀和会 秀和総合病院)
コメンテータ：栗原 怜(医療法人慶寿会)

O2-1 当院における後期高齢者の血液透析導入の傾向

上尾中央総合病院 腎臓内科 佐藤 貴彦 他

O2-2 透析療法選択を行い、計画的に透析導入した患者の経過 ～血液透析と腹膜透析の比較～

北朝霞駅前クリニック 看護部 板谷 妙子 他

O2-3 透析導入時において独自の冊子を使用して行った患者指導の評価

医療法人愛友会 上尾中央総合病院 透析看護科 山崎 睦子 他

O2-4 当院における救急搬送された維持透析患者の現状と課題

埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部 小野塚 豊 他

O2-5 当院血液浄化部門におけるインシデントの解析

埼玉医科大学 総合医療センター 秋山 貴弘 他

一般演題3 14:20～15:20

透析合併症他

座長：中里 優一(医療法人博友会 友愛日進クリニック)
コメンテータ：松村 治(医療法人蒼龍会 武蔵嵐山病院)

O3-1 CKD 患者の血清 P 値と尿中 P 排泄量および P 摂取量の関連

さいたまつきの森クリニック 栄養部 小林 恵 他

O3-2 透析定時処方薬の薬剤数と薬剤種類について 一多施設における検討一

さいたまつきの森クリニック 薬剤部 松倉 泰世 他

O3-3 ブラッドアクセス再循環により疑似漏血及び尿毒症性意識障害を呈した 1 例

(医)桂水会 岡病院 武藤 和夫 他

- O3-4 当院で経験したシャント静脈高血圧症の2例
獨協医科大学越谷病院 腎臓内科 今西 優仁 他
- O3-5 池袋病院腎センターにおける
レストレスレッグス症候群 (restless legs syndrome) 患者の実態
埼玉医科大学 東洋医学センター 小俣 浩 他
- O3-6 心不全合併透析患者に ASV を施行した5症例
特定医療法人社団 堀ノ内病院 奥田 尚史 他

アフタヌーンワークショップ 15:20~16:20

これからはじめるオンライン HDF

座長：田部井 薫 (自治医科大学附属さいたま医療センター 腎臓科)
小川 智也 (埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部)

- WS-1 オンライン HDF によって何が変わったか
医療法人蒼龍会 若葉内科クリニック 山下 文子 他
- WS-2 これからはじめる On-lineHDF
社会医療法人財団 石心会 さやま腎クリニック、埼玉石心会病院 CE 室 羽生 宜浩
- (共催企業プレゼンテーション) 15:20~15:25 旭化成メディカル株式会社
15:25~15:30 株式会社 ジェイ・エム・エス

一般演題4 16:20~17:20

- 透析技術他 座長：山下 芳久 (埼玉医科大学 保健医療学部 医用生体工学科)
コメンテータ：松田 昭彦 (埼玉医科大学総合医療センター 腎・高血圧内科)
- O4-1 透析液測定における血液ガス分析装置の検討
埼玉医科大学病院 血液浄化部 野本 亨 他
- O4-2 栄養指標による V 型ダイアライザ対象患者適正管理方法の検討
埼玉県厚生連久喜総合病院 山田 早苗 他
- O4-3 当院の On-Line HDF の臨床効果
北朝霞駅前クリニック 臨床工学部 小森 庄一郎 他

○4-4 新型 PMMA 膜の抗炎症作用と臨床症状への関与

医療法人社団腎盛会 蓮田クリニック 豊田 光 他

○4-5 糖尿病透析患者の心拍出量の評価

医療法人博友会 友愛三橋クリニック 中島 譲 他

○4-6 血液透析による限外濾過が体内各種臓器内酸素代謝に与える影響

自治医科大学附属さいたま医療センター臨床工学部 小藤 誠也 他

BPA 表彰・閉会式 17:20～17:30

会 長：鈴木 洋通(埼玉医科大学 腎臓内科)

モーニングセミナー

在宅血液透析の現状

モーニング

MS-1

当院での在宅血液透析(HHD)の現況と 長期在宅透析患者群の傾向

○高根 裕史(タカネ ヒロシ)、鈴木 洋通

埼玉医科大学 腎臓内科

本邦では2012年12月31日現在の統計で309,946名が透析療法を受けている。血液透析、腹膜透析および腎移植が腎代替療法として知られているが、うちわけとしては圧倒的多数で施設血液透析を96%以上の患者が受けている。治療選択肢としての在宅医療、在宅腹膜透析は約3%、在宅血液透析(HHD)にいたってはわずか0.1%(394名)の患者数であり、1998年4月より保険収載された在宅血液透析であるが、全国的には在宅血液透析を行っている患者は未だ少ない現状である。

当院では慢性腎不全患者の治療にも在宅医療を推進しており、在宅腹膜透析に加え在宅血液透析にも重点を置き近年患者数は増加してきている。在宅血液透析は患者本人と介助者が自宅で血液透析を完結しなければならない治療法であるが、当院でも透析機器の操作方法、シャント自己穿刺の教育およびトレーニングが臨床工学技士および看護師を中心として行われ1999年11月より1例目の在宅血液透析が開始された。患者数は2005年には6名、2006年には10名と順調に増加し、2013年現在は63名と在宅血液透析患者数は本邦最多数へと増加している。

このような当院での在宅血液透析の歴史をふまえ、現在の当院での最長期例は在宅血液透析歴13年目に突入しており、5年以上の在宅血液透析歴を持つ患者数も12名と増加している。今回在宅透析歴3年未満、3年以上5年未満、5年以上の群に分け、各群の1回透析時間、週あたりの透析回数、週あたりの透析時間、Scribnerらの提唱した在宅血液透析における適正透析量の指標となるhemo-dialysis product(HDP)に関して検討を行った。在宅透析歴が長期となる群にしたがって、それぞれ週あたりの透析時間は 16.3 ± 5.3 、 17.8 ± 4.5 、 21.3 ± 3.9 時間/週と長くなり、HDPも 86.5 ± 33.5 、 106.5 ± 36.9 、 117.0 ± 28.9 と増加しHDP70以上の適正透析を上回る結果となった。当院での長期在宅血液透析群における透析療法の傾向および有用性を含め報告する。

ランチョンシンポジウム

透析療法における薬物治療の役割

ランチョン

LS-1

透析療法における薬物療法の役割 ESA 製剤

○川本 進也(カワモト シンヤ)、甲田 亮、今西 優仁、吉野 篤範、竹田 徹朗
獨協医科大学越谷病院 腎臓内科

【背景・目的】 埼玉県東部の基幹病院の一つである当院に2011年5月透析センター(10台)がオープン以来、新規透析導入患者並びに合併症での他科入院中の透析患者の受け入れが可能になりその数は増加の一途である。また、2012年10月には隣駅の再開発ビル内に外来通院透析患者用に附属腎予防センター(20台)がオープンし保存期から透析期までの継続治療が可能になった。そこで、保存期から透析導入期、維持期にわたっての腎性貧血の治療状況について最新の長時間作用型 ESA 製剤の使用状況も含めて検討した。

【方法】 2012年1月から2013年10月までの1年間10ヶ月間に透析導入となった71名中導入前に3ヶ月以上保存期腎不全の治療がなされ、輸血施行のない患者52名を対象に導入直前3か月の貧血の推移および治療状況を調べた。そのうち透析後も附属腎予防センターをはじめ経過を把握できる施設で維持透析中の15名を対象に保存期、導入期、維持透析期にわたって貧血および治療状況の推移を調べた。

【結果】 保存期腎不全期から88%で長時間作用型 ESA 製剤が使用されその多くが高用量であったにもかかわらず透析導入時の Hb は8.8g/dlであった。また導入患者の7%で導入前に消化管出血や周術期等で輸血を要していた。透析導入後は血液の浄化および栄養状態の改善に伴って速やかに貧血は改善し保存期ほど高用量の ESA を要することなく目標値に達し維持できている。本シンポジウムでは保存期、導入期、維持期透析期それぞれの ESA 製剤の使用方法や使用経験を自験例も交えて紹介させていただく。

アフタヌーンワークショップ

これからはじめるオンライン HDF

アフタヌーン

WS-1

オンライン HDF によって何が変わったか

○山下 文子(ヤマシタ アヤコ)、小竹 文秋、吉田 哲

医療法人蒼龍会 若葉内科クリニック

透析液水質確保加算2が平成24年度から算定開始、診療報酬に収載されるようになり1年が経過した。

日本透析医学会ならびに日本臨床工学技士会のガイドラインに沿って、各施設における水質管理計画、透析液安全管理計画が作成されている。日本臨床工学技士会透析液清浄化ガイドラインでは、管理基準について「専用装置製造販売メーカーの添付文書に記載された管理基準に準ずる」とされており、専用装置製造販売メーカーの添付文書では、日本透析医学会で制定された最新の「オンライン補充液の水質管理基準に関する要求事項」に適合する事となっている。オンライン HDF 施行の際には、各施設で使用している装置の添付文書や取扱説明書等の文書を熟読する事は必然であるが、いくつかの疑問点も残る。

透析液の安全管理において清浄化は必然であるが、それと共に気をつけなければならないのは、透析液の汚染を防ぐ要因を取り除くことである。以外な箇所に汚染となり得るような要因がある事、ひとたび汚染を起こし気づかなければ、大惨事を起こす事を忘れず診療に当たることは、臨床工学技士の責務である。

HD やオンライン HDF においては、治療の面からは、ダイアライザ・ヘモダイアフィルタ、清浄化の面においては ETRF と、2つの膜に関しそれぞれ考慮しなければならないと考える。

現在当院では、患者総数の約35%でオンライン HDF を施行しており、東レメディカル社製 TDF シリーズを主に使用している。

当院における、HD からオンライン HDF 変更による血液データ、臨床症状等を報告すると共に、上記における透析液の清浄化管理についての注意点、業務内容の変化等について自験例とともに報告する。

一般演題

一般演題

01-1

「埼玉腎不全看護勉強会」の活動報告

○前蘭 道子(マエゾノ ミチコ)¹⁾、畦原 陽子²⁾、湯浅 美登利³⁾、島崎 玲子⁴⁾、
山下 たみ子⁵⁾、田邊 厚子⁶⁾、関 正巳⁷⁾、友菊 香⁸⁾、星野 文子⁹⁾、
只浦 真弓¹⁰⁾、岩永 くるみ¹¹⁾、稲庭 由美子¹²⁾、村上 綾子¹³⁾、
桑折 しのぶ¹⁴⁾、吉田 公子⁵⁾、岩崎 はるみ¹⁵⁾、寺久保 俊美¹⁵⁾

- 1) 医療法人社団和栄会 所沢腎クリニック、2) 堀之内病院、3) 望星病院、
4) さいたまつきの森クリニック、5) 友愛クリニック、6) 埼玉医科大学総合医療センター、
7) 池袋病院、8) 秀和総合病院附属秀和透析クリニック、9) 川口市立医療センター、
10) 蓮田一心会病院、11) 秀和総合病院、12) 志木駅前クリニック、
13) さくら記念病院、14) みさと健和クリニック、15) エイトナインクリニック

「埼玉腎不全看護勉強会(以下、当会)」は、埼玉透析医学会の下部組織として、腎不全看護に関する知識の向上を図り、医療現場へ貢献する目的で平成19年5月に発足した。現在、当会は県内14施設17名の幹事によって構成され、定期的に幹事会議を開催している。幹事会議では毎年5月に開催する看護勉強会の検討や透析施設間における意見交換などが行われている。特に看護勉強会のテーマは、前回の参加者を対象としたアンケートと県内透析施設を対象とした事前アンケートを参考に決定される。今回のアンケートでは透析困難症と血圧管理に関する治療やケア・日頃の問題や悩みについて県下透析施設173施設から273枚のご協力を頂く事ができた。このアンケート結果を参考に第6回埼玉腎不全看護勉強会を平成25年5月12日(日)に大宮法科大学院大学にて、テーマを「透析中…血圧下がって、足上がる。次は何する?埼玉の施設!」とし開催をした。内容は教育講演、特別講演、シンポジウムによりプログラム構成した。教育講演は看護師の立場からと、臨床工学技士の立場から透析中の血圧低下症例に対する取り組みについてご講演を頂き、特別講演では埼玉医科大学 総合診療内科 中元秀友先生より透析患者の血圧管理のポイントを高血圧と低血圧の両方の面からご講演を頂いた。シンポジウムでは、事前に頂いた現場における日ごろの問題や悩みを取り上げ、3人のパネリストの先生方と会場の参加者が活発な意見交換を行うことができた。また、前年度を更に上回る183名の参加を頂く事ができた。また、勉強会終了後には次回の講演内容と形式についての希望をアンケート調査した。今後も皆様の意見を反映し、充実した勉強会が開催できるように活動をしていきたい。

4th Saitama Society
For Dialysis Access

Proceedings 2013

第4回埼玉アクセス研究会 Proceedings

第4回埼玉アクセス研究会 Proceedings

目 次

特別講演

本邦におけるアクセス血管内治療の変遷と近未来 ―透析医の果たす役割―

佐藤 隆(名古屋共立病院バスキュラーアクセス治療センター 名港共立クリニック)

ランチョンセッション

バスキュラーアクセス(VA)トラブルを予防する取り組み

―各施設の工夫から学ぼう―

超音波診断装置におけるバスキュラーアクセス評価の有用性について

望星病院 臨床工学技士 原 正彦

透析室看護師のバスキュラーアクセス管理の現状

さくら記念病院 看護部 南 裕子 他

VA とリスクマネジメント ～VAを守るために～

さいたまほのかクリニック 中島 要 他

当院におけるバスキュラーアクセス 管理・フォローアップについて

上尾中央総合病院附属エイトナインクリニック 勝呂 由美子

シンポジウム

バスキュラーアクセス(VA)困難患者に対する取り組み

～直接穿刺からAVG、表在化まで～

VA 困難患者に対する取り組み ―表在化動脈の活用法―

南町クリニック 中川 芳彦 他

バスキュラーアクセスとして的大腿静脈直接穿刺法の検討

～内シャント未作製の腎移植症例における術前透析について～

埼玉医科大学国際医療センター 血液浄化部 末吉 慶多 他

アクセス困難症例に対するグラシルを用いた大腿ループシャントの有用性

埼玉石心会病院 心臓血管外科 塩見 大輔 他

一般演題

Echo 下 VAIVT における血栓除去カテーテル E-VAC の使用経験

医療法人社団 望星会 望星病院 臨床工学技士 原 正彦 他

VAIVT 時のバルーン通過困難例に対する pull-through 法の有用性

自治医科大学附属さいたま医療センター 放射線科 濱本 耕平 他

当院における VA 超音波検査の現状

戸田中央医科グループ 戸田中央総合病院 丸山 智恵子 他

超音波装置を用いたバスキュラーアクセスの管理状況

埼玉医科大学病院 血液浄化部 小林 祐子 他

当院におけるバスキュラーアクセス管理

北朝霞駅前クリニック 加藤 勇貴 他

透析モニター HD02 の有用性の検討

医療法人博友会 友愛三橋クリニック 増田 智弘 他

在宅血液透析患者へ介助者と連携した自己穿刺への支援

埼玉医科大学総合医療センター 関 典枝 他

メディキット社製ハッピーキャス SV の使用経験

医療法人一心会 伊奈病院 臨床工学科 船山 恵美 他

カフ型バスキュラーカテーテルを活用した高齢患者の日帰り血液透析導入を経験して

埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部・腎高血圧内科 小川 智也 他

特別講演

本邦におけるアクセス血管内治療の変遷と近未来 — 透析医の果たす役割 —

佐藤 隆 (サトウ タカシ)

名古屋共立病院バスキュラーアクセス治療センター
名港共立クリニック

【本邦の現状】

日本透析医学会の統計によると2012年度末の慢性透析患者数は約309,946人と報告されており、現在の透析患者数は約31万人以上と推察される¹⁾。これらのうち、腹膜透析を除く約97%は血液透析患者であり、バスキュラーアクセス (vascular access ; VA) の機能と形態を長期的に維持することは、透析医にとって重要な課題である。さらに新規導入患者の高齢化、原疾患としての糖尿病や腎硬化症の増加により血管は荒廃しており、導入時から既に自己血管内シャント (arterio-venous fistulas ; AVFs) 作製が困難な症例が増加しており、透析歴の長期化とともに人工血管内シャント (arterio-venous grafts ; AVGs) の使用例も増加傾向にある (図1, 2)²⁾。この

ような状況下でバスキュラーアクセスインターベンション治療 (vascular access intervention therapy ; VAIVT) は VA 狭窄・閉塞に対する外科的再建・修復前に試みるべき第一選択肢として、その立場を確立した感がある。

【本邦における VAIVT の変遷】

本邦における VAIVT の報告は1984年、第17回九州人工透析研究会における佐々木ら (福岡大学第二内科) の報告が最初と思われ、早期論文としては1989年、N.Kogaらによる『Angioscopy in Transluminal Balloon and Laser Angioplasty in the Management of Chronic Hemodialysis Fistulae』³⁾、1991年『経皮的血管形成術』⁴⁾、1994年『Stenotic Lesions I Vascular Access : Treatment with Transluminal Angioplasty Using High-Pressure

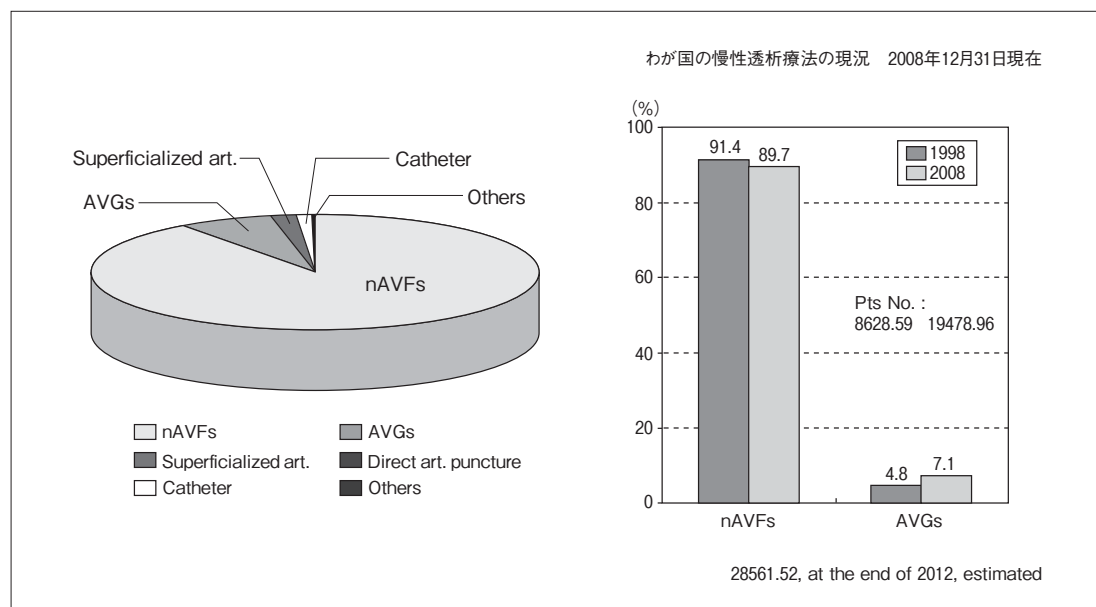


図1 バスキュラーアクセスの種類と割合

開 催 記 録

施 設 名 簿

会 則

索 引

埼玉透析医学会 会誌
広告掲載企業(五十音順)

旭化成メディカル株式会社	武田薬品工業株式会社
アステラス製薬株式会社	中外製薬株式会社
MSD 株式会社	テルモ株式会社
株式会社カネカメディクス	東レ・メディカル株式会社
株式会社 陽進堂	鳥居薬品株式会社
ガンプロ株式会社	日機装株式会社
キッセイ薬品工業株式会社	ニプロ株式会社
興和創薬株式会社	バイエル薬品株式会社
協和発酵キリン株式会社	ファイザー株式会社
第一三共株式会社	扶桑薬品工業株式会社
大日本住友製薬株式会社	ボストン・サイエンティフィック ジャンパン株式会社

埼玉透析医学会 会誌

発行日：2013年12月1日

発行：埼玉透析医学会

発行人：会長 鈴木 洋通

編集：埼玉透析医学会 事務局

事務局：埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部
〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1
TEL・FAX：042-984-0564
URL：http://www.ssdt.jp/
E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

編集責任者：塚本 功

編集委員：高根 裕史 小川 智也 金山 由紀 山口 由美子
村杉 浩 秋元 照美 土屋 陽平

出版： 株式会社セカンド
http://www.secand.jp/

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

定価：2000円